

大会第二日 11月7日(日曜日)

9:00~	受付開始		
	A会場(1号館701教室)	B会場(1号館702教室)	C会場(1号館401教室)
9:30~10:10	A-b-1 村尾忠廣：弾みのリズム・シンタックスと代償的グルーピングの再提起：認知音楽学におけるアップビートグルーピングの検証について	B-c-1 屋山久美子：近代エルサレムにおける東洋系ユダヤ人による新作宗教歌	C-b-1 平井真希子：ラッソ《シビュラの預言》研究
10:15~10:55	A会場	/	C-c-1 長岡英：二人のジョヴァンニ：パレストリーナとアニムッチャのミサ書法
11:00~11:40	シンポジウム2「響きの理論と音楽学」 コーディネーター：水野みか子(名古屋市立大学) パネリスト：橋崎洋子(愛知県立芸術大学) 長木誠司(東京大学) 江村哲二(金城学院大学) 中村滋延(九州大学)		C-c-2 山田高誌：1760年代後半のナポリの喜劇オペラにみる、ピッチニ(1728-1800)とパイジェッロ(1740-1816)の<異国趣味>についての趣味の異なり ピッチニ作曲《アメリカのナポリ人》(1768)、パイジェッロ作曲《中国の偶像》(1767)、《礼儀正しいアラブ人》(1769)を例に
11:45~12:25			C-c-3 関口博子：19世紀前期ドイツ語圏スイスにおける学校音楽教育の改革と合唱運動 H.G.ネーゲリとの関係に着目して
12:25~13:25	昼休み(60分)		
13:25~14:05	A-c-1 貫行子/長田乾/川上央：好きな音楽による快感情の癒し 音楽聴取による脳波変動と気分変化、音楽嗜好と性格特性との関連性	B-d-1 海野のみ：南アフリカの先住民グリクワの人びとにおける讃美歌 未婚の母たちの祈りの会ができるまで	C-d-1 沼野雄司：E.ヴァレーズとアメリカの社会主義 両大戦間期における「前衛」
14:10~14:50	A-c-2 広瀬大介：リヒャルト・シュトラウス 未完成の《チェロ協奏曲》(1936年)：ナチズムへの抵抗の意思表示	B-d-2 真崎恵子：インドネシア・バリ島におけるガムラン音楽の持続的発展：ガムラン楽団と儀礼との関わりを中心に	C-d-2 谷口昭弘：アメリカのネットワークラジオ局による委嘱が生み出した「ラジオ向け管弦楽法」と諸形式：Columbia Composers' Commissionsを例として
14:55~15:35	A-c-3 福中冬子：戦後ヨーロッパのミュージックテアターにおけるリアリティーの考察 リームを例に取って	B-d-3 梅田英春：インドネシア・バリ島の芸能と文化政策 文化審議育成委員会の諸活動とその成果	C-d-3 宮澤淳一：口実としてのドキュメンタリー制作 グレン・グールドのテキスト「音楽としてのラジオ」をめぐって
15:35~15:50	コーヒーブレイク(15分)		
15:50~16:30	A-d-1 石井明：2つの新発見資料から見る17世紀後期におけるフローベルガー作品の伝承事情	B-e-1 渡辺未帆：武満徹とシュルレアリズムー「オブジェ」の音楽	C-e-1 龍村あや子：アドルノの『新音楽の哲学』解説および近年のドイツにおけるアドルノ研究について
16:35~17:15	A-d-2 磯山雅：再発見されたバッハのカンタータBWV216のオリジナル・パート譜をめぐって	B-e-2 栗原詩子：ノーマン・マクラレンの音楽性 映像作品《シンクローミー》に流れる時間	/
17:20~18:00	A-d-3 三島郁：「beau-toucher(よい演奏)」に求められるわざ チェンバロ演奏における「ずらし」奏法からみえるもの	B-e-3 宮内勝：「音楽とは何か」 音楽的知の根本問題	
18:00~18:05	閉会のあいさつ/協力者への御礼 全国大会実行副委員長 水野みか子		